

水害時における 自助共助の伝統の継承

～「命のかけ橋」水塚の在る町～

群馬県 板倉町 水場の風景を守る会



喜びの声



受賞者
水場の風景を守る会
会長
針ヶ谷 照夫

コメント

水害を体験した町民が少なくなる中、近年の大規模化する風水害により水防が見直され始めていると感じています。近隣ニュータウンの住民との学習会などを通じ、風水害への備え・避難行動に関する経験を知識として伝え、皆でうまく避難して命を守っていくという考え方を広め、後世に繋いでいくことが我々の使命だと思っています。

活動の内容

- 防災建築「水塚」の利活用
- 揚舟講座（地元小学生の水防教育）
- 水場の語り部
- 水防文化を観光に活かす取組み（水塚ガイド等）

活動の経歴

- 平成 22 年 水場の風景を守る会発足
- 平成 24 年 景観ポスト（水塚ポスト）設置
- 令和 元年 東武健康ハイキング
- 平成 元年 板倉ニュータウン勉強会

3 活動の成果や波及効果等

令和元年には各地での台風被害を受けて、近隣ニュータウンの住民との学習会を開催。オオミズへの備えについての話や、避難行動について議論されました。

また、水場の文化を観光資源として活用する試みも推進。コースに水塚を組み込んだ「東武健康ハイキング」には1,000人を超える参加者が訪れ、迎えた水塚の説明では会員もボランティアとして協力することにより、水場における水塚の成り立ちや機能、備える文化について理解を深めていただき好評を博しています。



説明員として活躍 "語り部"に聴き入る



段ボールで揚舟作り 好評 揚舟谷田川めぐり

- 所在地 群馬県邑楽郡板倉町
- 活動主体及び連絡先 水場の風景を守る会
事務局:板倉町教育委員会
生涯学習係
- 対象となる社会資本 板倉町（水塚の在る町）/
利根川水系利根川、渡良瀬川/
谷田川



1 社会資本の概要

かつて関東平野をも形成した大河「利根川」。板倉町は、その利根川と渡良瀬川との合流点に形成された低湿地に位置し、古来より大水（オオミズ）による災禍と、流れ込む肥沃な土砂による恵みとともに栄え、穀倉地帯として発展してきました。「水場（みずば）」と称されるこの地域では、生活を営む様々な工夫が息づいており、防避難のために建築された「水塚（みづか）」や「揚舟（あげふね）」など

多くの水防の知恵や、かつての大規模治水事業であった「囲堤（かこいづつみ）」や「沼除堤（ぬまよけづつみ）」を現在でも確認することができます。これらの営みが基軸となった河川景観は「利根川、渡良瀬川合流域の水場景観」として平成23年に国の重要文化的景観に関東で初めて選定されました。



板倉町と二大河川



S22カスリーン台風被害の様子



生命と財産を守ってきた水塚

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

度重なる大水を経て編み出された工夫の数々も、堤防の整備とともに徐々に人々の目に触れなくなり、地域の記憶からも消えつつありました。『水場の風景を守る会』は、そのような状況を危惧した町民有志が集い、「水場」の風景の保全を通して、永く後世に「水害とともに共生した強いまちづくり」を語り継ぎ、先人の知恵や災禍の歴史とともに伝承することを目指し、平成22年に発足しました。

板倉町と連携し、時代とともに減少を続ける水塚をマップにし、案内板と構造を説明するチラシを入れるポストを設置。現地では会員による説明も実施しており、カスリーン台風等の経験に裏付けされた説明は、聞き手の五感を刺激する魅力的な文化遺産の一つです。伝承活動として「揚舟」の背景や漕ぎ方まで体験する「揚舟講座」や、体験を直接伝える「水場の語り部」も実施しています。



五感に語りかける水塚見学



浸水を想定し揚舟は軒先に



ポストの中には説明チラシ